

# For your Lifework

「生物」「生命」を研究・育成する施設から  
読者の皆さんへのメッセージ



## 公益財団法人 山階鳥類研究所 [Vol.1]

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115  
TEL: 04-7182-1101 URL: <http://www.yamashina.or.jp/>

文◎ 平岡 考 (山階鳥類研究所広報主任・自然誌研究室専門員)

人間活動に起因する環境破壊が近年ますます大きな問題となり、今後も人類が繁栄を続けるための大前提として、生物多様性を守ることの重要性が理解されるようになってきました。このような中で、鳥類は多くが昼行性であり、美しい色彩とさえずりで人の目につきやすいことから、環境指標としての価値が高く、鳥類の保護活動を通じて生態系全体の保全につなげられることが期待されています。

さらに、鳥類は飛翔能力を持ち、毎年定期的に地球半周以上の距離を渡るものもいます。ヒトの作った飛行機械と比較して、はるかに少ない消費エネルギーで、ほとんど騒音を出さずに大変な長距離を飛べるというだけでも、現代の私たちには手の届かない能力を持っていることがわかります。一方でヒトと鳥類は、地球上に生きる脊椎動物として共通の制約を受けており、それに共通のやり方で対処している部分もあります。鳥類がどのように生きているかを研究することは、私たちヒトがどんな生き物であるかを知ることであります。

山階鳥類研究所は鳥類を専門に研究している民間の研究機関で、1942年(昭和17年)に鳥類学者の山階芳麿によって財団法人として設立されました(現在は公益財団法人)。総裁に秋篠宮文仁親王殿下をお迎えしています。

山階鳥研が所蔵する鳥類学の研究資料のうち、おもに東アジアから太平洋地域で採集された7万点に及ぶ日本最大の鳥類標本コレクションと約4万点の図書資料は日本の鳥類学界全体にとってもかけがえのない財産です。標本と図書を、劣化を極力防ぎ、さらに価値を増やして次の世代に良好な形で引き継ぐとともに、現代の研究者などに有効に利用してもらうことは、私

たちの重要な仕事の一つです。具体的な実務として、標本材料の収集、標本作製、購入図書の選定と購入、空調管理や害虫モニタリング、来訪閲覧者対応、鳥類標本コレクションを標本データベースで、また図書を図書データベースで管理するといったことに職員が日々従事しています。さらに標本材料として収集した鳥体から、骨格形態のCT画像やDNA分析用のサンプルを採取しています。そういったサンプルやデータを用いた研究もおこなって成果を上げています。

保全の領域では、絶滅危惧種のアホウドリやヤンバルクイナなどの保護に資する研究をおこなってきました。番号つきの足環によって、野鳥の移動や寿命といった基礎データを得る鳥類標識調査は、全国約450名の協力調査員(バンダー)の協力のもとに、環境省の委託事業として実施しています。標識調査から得られたデータは、基礎生物学ためにも保全のためにも重要な資料となります。

山階鳥類研究所の研究成果を公表する媒体として、学術雑誌「山階鳥類学雑誌」を年2回発行しています。この雑誌は所員の研究成果ばかりでなく、所外の研究者の成果も掲載しています。

山階鳥類研究所は、科学研究費や各種補助金・助成金、調査の委託・請負等によって研究・活動を進めています。資料類の維持管理や組織運営については賛助会費や寄附金に頼っています。賛助会員にはどなたでもなっていただくことができ、会員の皆さんや関係の支援者などには隔月で広報紙「山階鳥研ニュース」をお届けしています。さらに講演会などの普及的活動を通じて、一般社会に研究成果や専門知識を還元するとともに、山階鳥類研究所に対する理解を深めていただきたいと考えています。日本の鳥類学の発展に貢献された個人または団体を表彰する、山階芳麿賞を2年に1回贈呈し、記念のイベントを公開で実施して、鳥類学に関する普及啓発にも努めています。

合計6回の連載の枠をいただきましたので、次回から、山階鳥類研究所の所員が携わっている仕事を紹介していきます。アホウドリの保全活動(出口智広研究員)、標本材料収集と関連の活動(岩見恭子研究員)、鳥類標識調査(仲村昇研究員)、モニタリングサイト1000海鳥調査(富田直樹研究員)、パイオミメティクス(山崎剛史研究員)についてご紹介する予定です。